

ハマル語の代名詞と後接語体系

高橋 洋成

(筑波大学)

s025035@u.tsukuba.ac.jp

0 はじめに

本稿はエチオピア南西部、低地オモ溪谷で使用されているオモ系言語の1つであるハマル語に関する調査報告である。ハマル族の中心的な町はジンカから南に約60km離れたディマカおよびトゥルミであるが、今回の調査ではディマカ近郊の村出身であり、現在はジンカにお住まいの Bazo Morfa 氏に協力して頂いた。氏の多大なる御助力に、この場を借りて感謝を申し上げたい。調査はジンカにおいて2010年3月に行われた。

2009年2月にアルバミンチで実施された前回の調査では2人の方々に御協力を仰いだ。御二人の間で一致しないデータが目立った。本調査の目的の1つは前回のデータの不一致の理由を探ることであったが、この点はすぐに判明した。御一人は幼い頃にトゥルミに移住した方で、ハマル語をよく知っているものの母語とまではいかず、それゆえ記憶が曖昧な語に関してはアムハラ語からの借用形を使いがちであったことである。外来語をハマル語に取り入れる際に生じる音変化と語形のパターンも興味深いテーマではあるが、本調査の目的から逸脱する。もう一人はカロ族の出身で、カロ語はハマル語に非常に近い言語でご自身もハマル語をよく知っているものの、ところどころカロ語の特徴が出てしまっていた。

こうした調査方法の不備を反省し、本調査ではハマル語を母語とする Bazo 氏の御協力の下に言語データの総点検を行いつつ、新たな語彙・例文の収集および文法的な分析を進めた。

*本稿は2007年度～2009年度科学研究費基盤研究(B)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表：乾秀行(山口大学)(研究課題番号：19401023)による研究成果の一部である。

1 ハマル語の音韻体系

本節はハマル語の音素目録を再考し、本稿における音素表記について述べる。

1.1 子音音素目録

ハマル語の子音音素体系を以下に挙げる。なお、高橋(2009)との大きな相違点は、(1) 放出音として /c'/ ではなく /t'/ を立てたこと¹、(2) 入破音 /g/ を追加したこと²、/h/ を /ɦ/ に変更したこと³、である。

	唇音	歯音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	p b	t d		k g	ʔ
鼻音		m n		(ŋ)	
震え音		r			
摩擦音		s z š			ɦ
側面音		l			
接近音	w			j	
破擦音			č	ǰ	
放出音		t'	č'	q'	
入破音	ɓ	d'		g'	

また、本稿において、/p/、/k/、/g/ の異音をそれぞれ /p̄/ [ɸ]~[f]、/k/ [x]、/ḡ/ [ŋ] と表記することがある。これらの異音の出現は予測可能であるが、一般には後者の形がよく現れるためである。この表記は便宜上のものであり、音韻論的に意味を持つものではないことに注意されたい。

表記によって注意を喚起することはしないが、音声に関する補足を以下に述べる。

- /t/ は舌を目視できるほど前方に突き出して発音され、更に氣息を伴い [tʰ]、あるいは軽い破擦音 [tʰ] のように聞こえる。/l/ も同様であり、特に狭母音の前では [ɭ] のように摩擦音的になる。入破音 /d/ の舌の位置も同じだが、構音上の理由から氣息を伴わない。放出音 /t'/ の舌の位置は /t/ よりわずかに後ろに置かれ、歯茎的である。
- 放出音 /q'/ は多くの場合 [x] のように聞こえる。

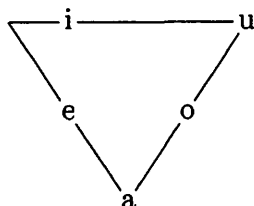
¹放出音の /c'/ はカロ語の特徴と思われる。

²例えば、/gepa/ 「蹴る」、/gija/ 「鞭打つ」など。

³声門摩擦音は [ɦ] としてしか実現せず、/h/ では読者に誤解を与えかねないためである。あくまで表記上の問題であり、音韻論的な解釈によるものではない。

1.2 母音音素目録

ハマル語の母音音素は以下の5個と考えられる。下記の図において /i/ を中央寄りにしているのは、この母音がしばしば中央化して [ɪ]~[ə]、あるいは無声化して [i̥] となるからである。逆に、/e/ は非常に狭い [e] であり、特に語末において [i] と混同しやすい。/u/、/o/ は円唇的である。



また、各母音は対応する長母音を持つ。本稿では長母音成分を /:/ という抽象音素として立て、各長母音は /i:/、/e:/、/a:/、/o:/、/u:/ と表記される。

č'ač'i 「空」

č'a:č'i 「根」

ところで、Lydall (1976: 397-399) は、ハマル語の母音を10個と数え、2個のカテゴリに分けられると論じている。カテゴリ I の母音は標準英語に近い音色を持つ i、e、a、o、u であり、その特徴は “open”、“unraised”、“pronounced with constrained pharynx” である。カテゴリ II の母音は基本母音に近い音色を持つ i、e、a、o、u である、その特徴は “hollow voice quality”、“pronounced with an open pharynx” である。そして、1つの語内では1つの母音カテゴリに属する母音しか出現しない。すなわち、ハマル語は母音調和を持つと Lydall は述べる。

しかし、Lydall が挙げている例には、そのままでは受け入れがたいものが多い。いくつかある。

1. 母音調和の例として šida “has remained” と šida “be washed” を挙げている（共に Lydall の表記）。しかしながら、後者は形態音韻論的に /*šij-d-a/ と分析されるものであり（cf. /šija/ 「洗え」）、/ij/→/i:/ という規則で /šid:a/ と長母音が生じる、と考えた方が自然である。また、前者に関しても、/šida/ の入破音 /d/ が “constrained pharynx” で発声されるために前後の母音も影響を受ける、と説明できる。すなわち、母音の音色の違いは二次的なものと考えられる。
2. 疑問代名詞 (ibid. 416) に ?li “who”、har “what” を挙げているが（共に Lydall の表記）、本調査ではそれぞれ /fiaj/、/fiar/ であることを確認した。つまり、“constrained pharynx” は語頭の /fi/ に起因するものである。さらに、人称代名詞 /fia/ 「君」に関しても、Lydall の説明に従えば a と

カテゴリ I 母音であるはずだが、実際には a とカテゴリ II 母音として表記しており (ibid. 414)、一貫性に欠ける。

こうした理由から、Lydall の主張する母音カテゴリの論拠は乏しい。

1.3 アクセントの種類

ハマル語の名詞アクセントの多くは語彙的に決まっている。動詞アクセントは形態に応じて決まる。

基本的に高低アクセントであるが、高低のレベルが語彙を決定する場合がある。

/kína/ [kɪ́na] 「今日」

/kina/ [kɪ-na]~[kɪ-na] 「彼に」

上記の例において、/kína/「今日」は常に高い音調から始まる。一方で、/kina/「彼に」は高低になる場合も低高になる場合もあるが(必ずしも平板アクセントではない)、前者に比べ音調の変化が大きくない。

/kánka/ [kan̩ka] 「彼によって」

/kinká/ [kɪn-kɪ] 「一緒に」

/kídar/ [ki̩dar] 「一緒に」

/kidar/ [ki-dar] 「彼の近くに」

これらの例の場合、後者は通常第 2 音節が高くなる。だが音調の変化は前者ほど大きくない。

/anq'asi/ [an-tq'a-tsi] 「子ヤギ」

/ánq'ási/ [an-tq'a-tsi] 「ハチ」

上記の例では、両者とも音調の変化はないが、音調のレベルが異なる。後者は常に高い音調で発音される⁴。

現時点におけるアクセントの分析は不十分である。本稿では、明らかにピッチが高い音節の母音にのみ í のような補助記号を振っている。

2 ハマル語の指示代名詞

下記の表において、1 列目は名詞の代表例としての /q'uli/「ヤギ」の各形態であり、2 列目以降は名詞に続く各指示詞の形を表す。

⁴/ánq'ási/「ハチ」はかすかに喉のきしみ音が聞こえ、ピッチの高いことが分かる。Lydall の表記に従えば an̩k'asi となるだろう。

q'uli	「これ、それ、あれ」		「これ」
q'ulta	ka	aga	kaš
q'ultono	koro	ogoro	koš
q'ullo	koro	ogoro	koš
q'ulla	kira	igira	kiš

q'uli	「別の」	
q'ulta	wa	aba
q'ultono	wa:nano, wanno	aba
q'ullo	wa:nano, wanno	aba
q'ulla	wanna	abina, amma

まず、名詞の各形態についてであるが、これらは Lydall (ibid. 406-9) が “a-form”、“no-form”、“na-form” と呼ぶものである。そもそも名詞は単独で用いることができるが、特に後接辞の -(t)a/ をつけることで「男性」「唯一」「小さい」等の意味を付加することができる。したがって、/q'ulta/ は「牡ヤギ」を表す。一方、後接辞の -(to)no/ は「女性」「多数・集合」「大きい」等の意味を持つ。/q'ultono/ は「牝ヤギ」を、/q'ullo/ は「多数のヤギ」を、それぞれ意味する⁵。さらに、後接辞の /-na/ は「複数」を示し、/q'ulla/ は「複数のヤギ」となる。

指示詞は、これらの名詞形態に呼応しなければならない。

q'ulta aga 「そのヤギ」
q'ulla igira 「そのヤギ達」

さて、/ka/ と /igira/ はどちらも近称・遠称に用いることができ、現時点で違いは不明である。距離を示すときは /sus/ 「近く」、/sá/ 「遠く」を併用する。

- (1) sus igira fiar
近く それ 何
「これは何だ？」
- (2) sá aga fiar
遠く それ 何
「あれは何だ？」

/koš/ は、対話者同士で共通認識されておらず、話者のみが認知している「これ」を示す⁶。

/wa/ は同じ種類で別のもの、/ab/ は別の種類のものを示す。

⁵ /-no/ と /-tono/ を使い分ける例は珍しく、多くはどちらか一方の形のみを用いる。

⁶ 調査協力者である Bazo 氏の御教示による。

(3) wa:ni q'ole
他+限定 ない
「(盗まれて) 他のがなくなった。」

(4) aga abá ne
それ 別 断定
「それは別物だ。」

ところで、Lydall の 3 分類に加え、定冠詞のように名詞を限定する後接辞 /-n/ があると思われる。この接辞は動詞の分詞にもつく⁷。

(5) mete-n burq'-ad-í di-u
頭-限定 痛む-受動-状態 いる (状態)-疑問
「頭が痛いのか？」

(6) inta keri-n goš-í di ne
私 戸-限定 引く-状態 ある (状態) 断定
「私は扉を引いた。」

(7) noq'o-n wučenka a:p-í di ne
水-限定 飲む-分詞 (状態)-男性-限定-具格 見る-状態 ある (状態) 断定
wuč-i-a-n-ka(?)
「水を飲んでいる最中に見た。」

限定接辞 /-n/ を持つ名詞を修飾する形容詞も呼応してこの接辞を持つが、指示詞を用いるときは既に限定されているためか、指示詞の /-n/ 形は現時点で確認されていない。

3 ハマル語の人称代名詞

ハマル語の人称代名詞には、一人称の単数・複数、二人称の単数・複数、および三人称に分類される。また、それぞれが長形と短形を持つ⁸。

⁷以下の形態分析において、「已然」は高橋(2009)における A 語幹 (Lydall における “Perfect stem”)、「未然」は E-語幹 (“Imperfect stem”) を表す。日本語の五段動詞における未然形の語幹形成母音は -a- だが、-a- が付加された語幹が全て「未然」を表すわけではなく、後続する助動詞などの要請によって形式的に付加されていることが多い。同じように、ハマル語の動詞語幹形成母音もある程度の意味的傾向が見られるものの、形式的に付加されていると考えられるものが多い。それゆえ、意味的傾向はあれど実際には形式に基づく分類であるという意図を込め、日本語文法からこれらの用語を拝借した。

⁸Lydall(ibid. 413-4) は、/i/ 列を “stem-form”、/in/ 列を “no-form”、/inta/ 列を “a-form” とし、名詞の接辞体系と対応させようとしているが、根拠は希薄であると思われる。

長形	短形	
inta	i(n)	「私」
ja	fa(n)	「君」
wodi	wo(n)	「私達」
yesi	je(n)	「君達」
kidi	ki(n)	「彼、彼女、彼ら」
kodi	ko(n)	「彼女」
	ji(n)	「(既出の) 彼、彼女、彼ら」

3.1 三人称代名詞について

/ki(di)/ は男性・女性、単数・複数の区別なく用いることができる。一方、/ko(di)/ は専ら 1 人の女性を指す⁹。さらに、Lydall が “referring third” と呼ぶ /ji/ は、文中で既出の三人称を指す。

- (8) ímba i-dan jin (kin) fiad-a-n-ka na:si ne
 父 私-対格 彼 (彼) 生む-限定-分詞 (已然)-具格 子ども 断定
 「父は、彼が私を生んだときは (まだ) 子どもだった。」

- (9) índa i-dan jin (kon) fiad-a-n-ka na:si ne
 母 私-対格 彼女 (彼女) 生む-限定-分詞 (已然)-具格 子ども 断定
 「母は、彼女が私を生んだときは (まだ) 子どもだった。」

上記で括弧内に入れたように、それぞれの /jin/ は /kin/、/kon/ で置き換え可能であるが、/jin/ を用いた方が文意が明確になる。もっとも、一人称や二人称に /jin/ を用いることはできない。

- (10) ínta ki-dan in (*jin) fiadanka na:si ne
 私 彼-対格 私
 「私は、彼を生んだときは (まだ) 子どもだった。」

こうした /ji/ の性質は、再帰代名詞によく反映されている。

inta inti	「私自身」
ja fianti	「君自身」
wodi wonti	「私達自身」
jesi jenti	「君達自身」
kidi jinti	「彼・彼女・彼ら自身」
kodi jinti	「彼女自身」

⁹Lydall (ibid. 414) は前者を “particular individual(s)”、後者を “non-individual third person” と呼んでいる。特に後者に関しては “This form is used for a female if she is spoken of as just a female and not a particular individual” と説明するが、文意が不明瞭である。

3.2 長形人称代名詞について

長形の人称代名詞は、統語上は省略可能な主文の主語を明示したい場合によく用いられる。

- (11) (ja) da:q'ard-í di-u
君 空腹になる-状態 ある (状態)-疑問
「(君は) 空腹か？」
- (12) (inta) da:q'ard-í di ne
私 空腹になる-状態 ある (状態) 断定
「(私は) お腹がすいた。」
- (13) (inta) likka gi:q' fia:m-í-n da ne
私 少し 横たわる 目を瞑る-状態-限定 ある (已然) 断定
「(私は) 少し横になって寝るよ。」

3.3 短形人称代名詞について

短形の人称代名詞は、特定の動詞形態と結び付いて統語的に必須になることが多い。また、長形代名詞と一緒に出現しても良い。

- (14) tá:ki ko je?-á de
今 彼女 行く-已然 ある (未然)
「今、彼女が行った。」
- (15) (inta) kumm-á-tí i da: de
私 食べる-已然-否定 私 いる ある (未然)
「(私は) 食べている。」
- (16) (inta) ra:t'i-n kum-á i da kum-é
私 ミルク-限定 ミルクを飲む-已然 私 ある (已然) ミルクを飲む-未然
「(私は) そのミルクを飲まねばならない。」
- (17) (kidi) ki fiapp-ad-e
彼 彼 髪を編む-受動-未然
「(彼は) 髪を編み直してもらった方が良い。」

もしくは、従属文 (分詞¹⁰) の主語として用いられる。

- (18) kon našé i-na gi?-a
彼女 愛する-分詞 (状態)-男性 私-与格 教える-単数命令
naš-í-a(?)
「彼女が好きなものを私に教えてくれ。」

¹⁰Lydall は “relative” と呼んでいる。

- (19) donza-na won e:lá:na ki ni?-e
 長老-複数 私達 呼ぶ-分詞(未然)-複数 彼ら 来る-未然
 e:l-áj-na?

「私達が呼んでいる長老達が来てくれますように。」

短形代名詞は、名詞と同じように接語を伴うなどして複合語を構成できる。
 このことについては 4、5 節で詳しく述べる。

í-sa	「私の」	í-na	「私に」
i-dan	「私を」	i-dar	「私の近くに」
í-bar	「私の側に」	in-ka	「私で」
im-bét	「私と」	i- <u>k</u> alanka	「私から」

4 ハマル語の所有表現

ハマル語には数種類の所有表現がある。

第一に、所有される名詞の先頭に、所有者を示す単形代名詞をつける方法がある。

i-míso	「私の友達」
fa-míso	「君の友達」
wo-míso	「私達の友達」
je-míso	「君達の友達」
ki-míso	「彼・彼女・彼らの友達」
ko-míso	「彼女の友達」

これは有生・無生、分離可能・不可能などの区別なく用いることができる。

ki-ímba	「彼の父」
ki-išime	「彼の兄・伯父」
ki-borq'oto	「彼のボルコト」
ki-pe:	「彼の土地」

第二に、単形代名詞に /sa/ 「～の」を後接して属格を作る方法がある。

í-sa míso	「私の友達」
fa-sa míso	「君の友達」
wo-sa míso	「私達の友達」
je-sa míso	「君達の友達」
ki-sa míso	「彼・彼女・彼らの友達」
ko-sa míso	「彼女の友達」

第三に、所有代名詞を用いる方法がある。以下に各形態の一覧を挙げる。

a-form	no-form	na-form	
intée	inno	inna	「私の」
fiantée	fianno	fianna	「君の」
wontée	wonno	wonna	「私達の」
jentée	jenno	jenna	「君達の」
kintée	kinno	kinna	「彼・彼女・彼らの」
kontée	konno	konna	「彼女の」
jintée	jinno	jinna	「(既出の) 彼・彼女・彼らの」

所有代名詞は形容詞のように原則として名詞に後続し、名詞の形態に呼応した形をとる。

ímba intée 「私の父」
 inda inno 「私の母」
 q'ultóno inno 「私の牝ヤギ」
 anq'ana inna 「私の子ヤギ達」

形容詞同様、後接語は所有代名詞の後に置かれる。

aḗala intée-ka 「私の服で」
 o:ni-n inno-n-t 「私の家の中に」

5 ハマル語の後接語

ハマル語の名詞は、他の語との関係を示す後接語をとることができる。

5.1 接語と接辞

接語、あるいは敷衍して「語とは何か」は一般言語学における一大テーマであるが、本稿では次の基準により、語としての接語と形態素としての接辞とを分けている。

第一に、形容詞が呼応するものは接辞と考える。下記の例において、/-(t)a/、/-(to)no/ は名詞のみならず、呼応する形容詞にもつく。つまり、語配列の要請に応じて、各語がそれぞれ対応すべき形態論的事項と考えられるため、これらは語内の形態素すなわち接辞と見なす。

q'ultta intée 「私の牝ヤギ」
 q'ultóno inno 「私の牝ヤギ」

逆に、形容詞が呼応しないものは接語と見なせる可能性が高い。

aḗala intée-ka 「私の服で」
 o:ni-n inno-n-t 「私の家の中に」

上記の例で /-ka/、/-t/ は形容詞についているものの、実際には /aṗala intée/、/o:ni-n inno-n/ という句全体を修飾している。すなわち、語構造と言うより句構造・語配列に関わる事項である。それゆえ、これらはある程度の独立度を持つ語であると考ええる。

第二に、ある程度自由に複合しうるものは接語と見なす。3.3 節で触れたように、短形代名詞と接語は比較的自由に複合できる。接語は代名詞のみならず様々な名詞と複合でき、パラダイムのような閉じた集合を構成しない。このことは、これらの要素の独立度が比較的高いことを示唆している。

しかしながら、接語はしばしば形態音韻論的な音変化を伴う。例えば、/k/ が摩擦音化して /k/ になるのは通常、語中の母音間に位置する場合であり、語頭で摩擦音化することはない。しかし、i-kalanka のように、後接語 /kalanka/ における語頭の /k/ はあたかも語中であるかのように摩擦音化する。このことは、接語がいわゆる通常の語よりは独立度の低いものであることを示唆している。

5.2 sa

後接語 /sa/ は属格を構成する。

- (20) í-sa a:namo lama da: ne
私-属格 友人 2 いる 断定
「私の友人は 2 人いる。」

- (21) waḵ-a-sa ímba fiaj ne
牛-男性-属格 父 誰 断定
「牡牛の所有者は誰だ？」

- (22) q'uli-sa síja da-u
ヤギ-属格 悪い ある (已然)-疑問
「ヤギに悪いところ (病気) があるか？」

所属だけでなく材質や (eg. /fiq'a-sa/ 「木製の」)、位置を表すこともできる。

- (23) i-sa fiar ki kirb-e
私-属格 誰 彼ら 踊る-未然
「私の周りを (?) 誰か踊ってくれ。」

4 節で述べたように、短形代名詞から所有代名詞を作ることができる。

ísa	「私の」	fiasa	「君の」
wosa	「私達の」	jesa	「君達の」
kisa	「彼・彼女・彼らの」	kosa	「彼女の」

以下は疑問詞に付加された例である。

fajsa	「誰の」	farsa	「何の」
-------	------	-------	------

関係節の例を以下に挙げる。

- (24) q'ul-ta fian šan-á-a-sa baza me:m faj ne
ヤギ-男 君 買う (šansš)-分詞 (已然)-男性-属格 値段 いくら する 断定
「君が買った牡ヤギの値段はいくらするのだ？」

この文では、/q'ulta-sa baza/ 「牡ヤギの値段」における /q'ulta/ と /sa/ の間に、/fian šanáa/ 「君が買った (ところの)」が挿入されている。このことから、/sa/ の統語的性質が確認される。

5.3 dan

ハマル語では基本的に、動詞の目的語の標識は不要である。

- (25) inta ha:na poto-na inna doj-í di ne
私 君+与格 写真-複数 私の+複数 見せる-状態 ある (状態) 断定
「私は君に写真を見せた。」

しかし、後接語 /dan/ を用いて対格を明示することもできる。

- (26) inta ki-dan kón-ka ki-na im-s-í di ne
私 それ-対格 彼女-具格 彼-与格 与える-使役-状態 ある (状態) 断定
「私はそれを彼女に、彼に与えさせた。」
- (27) inta tampo-(n)-(dan) gans-a-ti i da: de
私 嗅ぎ煙草-(定)-対格 嗅ぐ-已然-否定 私 いる ある (未然)
「私は (その) 嗅ぎ煙草を嗅いでいた。」
- (28) inta ha-dan kelš-i di ne
私 君-対格 助ける-状態 ある (状態) 断定
「私は君を助けた。」
- (29) hamar baš-í di ne galaba-na-dan
ハマル 勝つ-状態 ある (状態) 断定 ダサネチ-複数-対格
「ハマル族はダサネチ族に勝った。」

以下は単形代名詞に /dan/ がついた形である。

/idan/	「私を」	/fiadan/	「君を」
/wodan/	「私達を」	/jedan/	「君達を」
/kidan/	「彼・彼女・彼らを」	/kodan/	「彼女を」

以下は疑問詞に /dan/ がついた形である。

/fajdan/	「誰を」	/fiardan/	「何を」
----------	------	-----------	------

限定辞等を用いて動詞を名詞化してから /dan/ を後接すると、大過去あるいは過去完了のように既に終わった出来事を表す。

- (30) kin niʔ-a-n-dan, lansi wodi jeʔ-i di
 彼 来る-已然-限定-対格 それから 私達 行く-状態 ある (状態)
 「彼らが来た後、私達は行った。」

助動詞を用いる際に、動詞に直接 /dan/ をつけることがある¹¹。

- (31) inta jíri gob-a-dan dandajáti ne
 私 速い 走る-已然-対格 できる 断定
 「私は速く走れる。」

5.4 na

後接語 /na/ は与格を作る。

- (32) inta ha:na ɖalqʻ-i-n da ne
 私 君+与格 話す-状態-限定 ある (已然) 断定
 「私は君に話している。」
- (33) tij-a, fi:na im-í di ne
 持って行く-単数命令 君+与格 与える-状態 ある (状態) 断定
 「持って行け、君にあげよう。」
- (34) inta ha:na imɓ-í di ne
 私 君+与格 与えられる-状態 ある (状態) 断定
 「(私を) 君にあげよう。」
- (35) šonnja-na ra:tʻi im-a
 客+複数-与格 ミルク 与える-単数命令
 「客達にミルクをあげなさい。」

/na/ は受益者のみならず、行為の理由や目的を示す。すなわち、その行為がどのような方向に向かうのかを表す。

- (36) qʻaski-na-sa asin-na-na ki pimɓ-a di
 犬-複数-属格 歯-複数-与格 彼 恐れる-已然 ある (状態)
 「犬の牙を彼は恐れた。」
- (37) isini-n-na gaja-n ojt-a
 ソルガム-限定-与格 ヒヒ-限定 追い払う-単数命令
 「ソルガムのために (i.e. 荒らされないよう) ヒヒを追い払え。」

以下は単形代名詞に /na/ がついた形である。

/ína/	「私に」	/fiá:na/	「君に」
/wona/	「私達に」	/jena/	「君達に」
/kina/	「彼・彼女・彼らに」	/kona/	「彼女に」

¹¹ この例については、まだ分析が不十分である。

以下は疑問詞に /na/ がついた形である。理由を問う疑問詞 /fiarna/ 「なぜ」はこの形を用いる。

/fiajna/ 「誰に」 /fiarna/ 「何に、何のために (なぜ)」

動詞を限定辞 /-n/ によって名詞化し、更に /na/ を後接して不定詞であるかのように用いる用法はよく見られる。

- (38) inta fiamar aṗo dalaq'-a-n-na desá desa
私 ハマル口 話す-已然-限定-与格 知る 知る
「私はハマル語の話し方を覚えるだろう。」

- (39) inta kumm-á-n-na zag-í-n da ne
私 食べる-已然-限定-与格 欲する-状態-限定 ある (已然) 断定
「私は食べたい。」

また、行為の理由を示す性質から次のような表現も用いられる。

- (40) inta naš-í di ne, ha-dan a:p̄-a-n-na
私 愛する-状態 ある (状態) 断定 君-対格 見る-已然-限定-与格
「私は君に会えて嬉しい。」

さらに、行為の向かう先を示す性質上、しばしば条件節のように用いられる。

- (41) wa:dima-n inno-n i mač'-a-n-na, ukuns-a i
仕事-限定 私の+女性-限定 私 終える-已然-限定-与格 休む-已然 私
da ukuns-e
ある (已然) 休む-未然
「仕事を終えたら、私は休もう。」

- (42) i fiáj-a-n-na, ja-r fiáj (fiáj-á fia) da fiáj-e
私 する-已然-限定-与格 君-奪格 (?) する 君 ある (已然) する (未然)
「私がしたら、君からも (?) してくれ。」

- (43) fia dalaq'-i-n-na, i dalaq'-e
君 話す-状態-限定-与格 私 話す-未然
「君が話すなら、私にも話させてほしい。」

- (44) je bašá:mma,
君達 勝つ-分詞 (已然)-男性-限定-否定
baš-á-a-n-ma(?)

kajé da kaj-é
絶える-已然 君達 ある (已然) 絶える-未然
kaj-á je(?)

「君達が勝たねば、(家系が) 絶えてしまうだろう。」

5.5 dar

後接語 /dar/ は対象に隣接していることを示す。しばしば英語の “on” のように上に載っていることを表す。

- (45) inta bo:-dar damm-í di ne
私 崖-上 落ちる-状態 ある (状態) 断定
「私は崖から落ちた。」

- (46) nun-dar t'e:zi dorq'-a
火-隣 近い 座る-単数命令
「火の近くに座れ。」

こうした性質により、特定の動詞の目的語のように用いられることがある¹²。

- (47) inta ki-dar ka:m-í di ne
私 彼-隣 会う-状態 ある (状態) 断定
「私は彼に会った。」

- (48) inta ki-dar ni?-í di ne
私 彼-隣 来る-状態 ある (状態) 断定
「私は彼の隣に来た (彼に会った)。」

以下は単形代名詞に /dar/ がついた形である。

/ídar/	「私の隣に」	/fiá:dar/	「君の隣に」
/wodar/	「私達の隣に」	/jedar/	「君達の隣に」
/kidar/	「彼・彼女・彼らの隣に」	/kodar/	「彼女の隣に」

以下は疑問詞に /dar/ がついた形である。

/fiajdar/	「誰の隣に」	/fiardar/	「何の隣に」
-----------	--------	-----------	--------

5.6 ka

名詞に /ka/ を後接することで、行為に付随するものを示す具格になる。

- (49) inta aṗala intée-ka šurt-í di ne
私 服 私の+小-具格 拭く-状態 ある (状態) 断定
「私は自分の服で拭いた。」

- (50) ko-dan kánka jeski-s-a
彼女-対格 彼+具格 着く+使役+単数命令
「彼女を彼に迎えに行かせよ。」

¹²例 (42) の /fiadan a:pá/ 「お目にかかる、会う」と比較せよ。

その性質上、特定の動詞の目的語のようになることもある。下記の /wočima/ 「叱る」の目的語には /dan/ ではなく /ka/ を用いる。これは受動態にしても同じである。

(51) ímba in-ka (*ídan) wočim-í di ne
 父 私-具格 叱る-状態 ある(状態) 断定
 「父は私を叱った。」

(52) inka wočim6-í di ne
 私-具格 叱られる-状態 ある(状態) 断定
 「私は叱られた。」

単形代名詞に /ka/ をつける場合、/n/ が出現する。また、三人称の /kánka/ (/kínka/)、/kókka/ (/kónka/) に注意のこと。

/inka/	「私によって」	/fánka/	「君によって」
/wonka/	「私達によって」	/jenka/	「君達によって」
/kánka/	「彼・彼女・彼らによって」	/kókka/	「彼女によって」

以下は疑問詞に /ka/ がついた形である。

/fajka/ 「誰によって」 /fiarka/ 「何によって」

さらに、長形代名詞から派生したと思われる次のような形もある¹³。

/e:táka/	「私によって」	/fiatáka/	「君によって」
/wo:táka/	「私達によって」	/jetáka/	「君達によって」
/ke:táka/	「彼・彼女・彼らによって」	/körtáka/	「彼女によって」

上記を用いる場合、動詞+主語の順になることが多いようである。

(53) da:b-a ke:táka, inta ni?-a-b
 起きる 彼+具格 私 来る-已然-完了
 「彼の目覚めに伴い、私は来た。」

動詞の分詞に /ka/ をつけることで、先行する名詞によって示されるものが、その行為を伴っていることを示す。

¹³形態上の類似例は Lydall(ibid. 426) の -atoa 「～できるか?」に見つかるが、意味が全く異なる。

- (54) inta na:sa-ɕan katámá-n-te kin jajenka
私 男の子-対格 町-限定-位格 彼 歩く-分詞 (状態)-男性-限定-具格
jaj-i-a-n-ka(?)

a:p-í di ne
見る-状態 ある (状態) 断定

「私は男の子が町へ歩いて行くのを見た。」

したがって、しばしば時間的順序を表現する。

- (55) wo jeʔ-a-ka, (ki) ze:lí-n-t jesk-a de
私達 行く-已然-具格 彼ら 敷地-限定-位格 着く-已然 ある (未然)
「私達が行った後、(彼らが)敷地にやって来た。」

- (56) je jajsáka, o:ni-n-t ki jesk-a de
君達 歩く-分詞 (未然)-属格-具格 家-限定-位格 彼ら 着く-已然 ある (未然)
jaj-aj-sa-ka(?)

「君達の歩いて行った後、その家に彼らがやって来た。」

- (57) ki da kirb-i-ka, pe:~no sed-í di ne
彼 ある (已然) 踊る-状態-具格 大地-大 明るくなる-状態 ある (状態) 断定
「彼らが踊っている間に、夜が明けた。」

- (58) inta le:pí-n di: di ne, fia:n in garaj-se jeʔenka
私 骨-限定 死ぬ (di?) ある (状態) 断定
jeʔ-i-a-n-ka(?)

「私は君が去ってしまって寂しい。」

あるいは条件節であるかのように用いられる。

- (59) i kumm-á-ka, í-sa í: da burq'-a de
私 食べる-分詞 (已然)-具格 私-属格 胃 ある (已然) 痛む-已然 ある (未然)
「食べたら私の胃が痛んでしまうだろう。」

5.7 kal

後接辞 /kal/ の意味は現時点で不明瞭であるが¹⁴、少なくとも受動態における行為者を示す用法が確認されている。下記の *kokal* を、例えば具格の *ko-ka* 「彼女によって」に置き換えると文意が不明瞭になる。

- (60) inta ko-ka naš-ad-i di ne
私 彼女によって 愛する-受動-状態 ある (状態) 断定
「私は彼女から愛されている。」

¹⁴Lydall (ibid. 413) における (i)l “some, any” と、具格を表す /ka/ の複合形であるとも考えられる。しかし、調査協力者の Bazo 氏の御教示によると特に複数という含意はない。

以下は単形代名詞に /kal/ がついた形である。二人称単数形において、語頭の /h/ が（おそらく後続する摩擦音 /k/ の影響で）脱落していることに注意されたい。

/ikál/	「私によって」	/akál/	「君によって」
/wokál/	「私達によって」	/jekál/	「君達によって」
/kikál/	「彼・彼女・彼らによって」	/kokál/	「彼女によって」

以下は疑問詞に /kal/ がついた形である¹⁵。

/fiakal/	「誰によって」
/fiarkal/	「何によって」

5.8 t

後接語の /t/ は中にあること、つまり位格を示す¹⁶。

- (61) mete-n innó-n-te q'asa-no pač'i ne
 頭-限定 私の+女性-限定 シラミ-多 たくさん 断定
 「私の頭にシラミがたくさんいる。」
- (62) ja fiamó-t fia fiad-ad-a-da
 君 どこ-位格 君 生む-受動-已然-ある (已然)
 「君はどこで生まれたんだ？」
- (63) inta hamari-n-t i fiad-ad-a de
 私 ハマル-限定-位格 私 生む-受動-已然 ある (未然)
 「私はハマルで生まれた。」
- (64) na:si dá: ne o:ni-n-t
 子ども ある (已然) 断定 家-限定-位格
 「子どもがその家にいる。」

¹⁵使用例として、/jerra fiarkal/ 「(探し物を頼まれて家に入ったがどれを持って行けば良いか分からないときに) どれだった？」

¹⁶なお、Lydall(ibid. 423-424)によれば、動詞に /t/ をつけることで現在分詞や未来分詞を作ることができる。

- (1) de:sim-á-a-ta i ba:k-e
 粉挽きする-分詞 (已然)-男-否定/位格 私 料理する-未然
 「粉挽きしなかったなら私が料理しよう／私が粉引きして料理しよう。」
- (2) ké:m-ó-ta ki ni?-á de
 結婚する-願望-否定/位格 彼 来る-已然 ある (未然)
 「彼は結婚しに来た。」

しかしながら、今回の調査においてこれが後接語の /t/ なのか、それとも否定辞の /t(a)/ なのかを判別することができなかった。特に前者の例において、Bazo 氏は明らかに「粉挽きしなかったなら」と否定の意味に解釈していた。

- (65) *na:si da: ne o:ni-n inno-n-t*
 子ども いる 断定 家-限定 私の+女性-限定-位格
 「私の家に子どもがいる。」

5.9 bar

後接語 /bar/ は、名詞が示すものがある場所、もしくはそれがある側を示す¹⁷。

- (66) *inta fia:bár ut-í-n da ne*
 私 君+所 登る-状態-限定 ある (已然) 断定
 「私は君がいる所まで登る。」
- (67) *bazimbar (baz-n-bar) i da ni?-e*
 大きな水-限定-所 私 ある (已然) 来る-未然
 「私を水のある所に来させてほしい。」
- (68) *inta fia:bár jesk-í di ne*
 私 君+側 着く-ある (已然) ある (状態) 断定
 「私は君の側にいる (君の味方だ)。」

以下は単形代名詞に /bar/ がついた形である。

/íbar/	「私の所に」	/fia:bár/	「君の所に」
/wobar/	「私達の所に」	/jebar/	「君達の所に」
/kibar/	「彼・彼女・彼らの所に」	/kobar/	「彼女の所に」

以下は疑問詞に /bar/ がついた形である。

/fiabar/	「誰の所に」	/fiarbar/	「何の所に、どちら側に」
----------	--------	-----------	--------------

/bar/ を用いる次のような慣用表現がある。

- (69) *fiar fiar-ta da:*
 何 する-分詞 (男性?) いる
 「何をしてるんだい？」
- (70) *í-sa í-bar i da: de*
 私-属格 私-所 私 いる ある-未然
 「何もしていない。」

5.10 ra

後接語 /ra/ は行為の起点、奪格を示す。

- (71) *inta o:ni-ra ut-i di ne*
 私 家-奪格 出る-状態 ある (状態) 断定
 「私は家から出た。」

¹⁷Lydall(ibid. 411) は、/bar/ を /ra/ の異形態として両方を “beside, away from, out of” の意味と述べているが、今回の調査は異なる結果を得ている。

今回の調査では、人称代名詞にこの後接語がつく十分な証拠を得られなかった¹⁸。

5.11 kalanka

後接語 /kalanka/ は、もう一つの奪格である。

- (72) inta a-xalanka fiamar aḵo tamar-í-n da ne
私 君-から ハマル口 教わる-状態-限定 ある (已然) 断定
「私は君からハマル語を教わっている。」

- (73) kalánka tij-í di ne
彼+から 持って行く-状態 ある (状態) 断定
「彼から取って来た。」

以下は単形代名詞に /kalanka/ がついた形である。二人称単数で語頭の /h/ が脱落していること、三人称で (おそらく /k/ の重複を避けて) 音節が脱落している形があることに注意されたい。

/íkalanka/	「私から」	/axalanka/	「君から」
/wokalanka/	「私達から」	/jekalanka/	「君達から」
/kalánka/	「彼・彼女・彼らから」	/kalánka/	「彼女から」
(/kikalanka/)		(/koḵalanka/)	

以下は疑問詞に /kalanka/ がついた形である。

/hajakalanka/	「誰から」	/harkalanka/	「何から」
---------------	-------	--------------	-------

5.12 roka

後接語 /roka/ は、名詞によって示されるものの中を通り抜ける意味を持つ。

- (74) q'aw-roka ko gob-á de
森-通って 彼女 走る-已然 ある (未然)
「彼女は森の中を走った。」

6 おわりに

本稿では、まずハマル語の音韻体系を再考することにより語彙調査の基礎固めを行い、次に代名詞を用いて名詞および名詞句構造を概観した。最後に、名詞の後接語の種類と機能を概観し、文を分析するための基礎的な情報を提示した。特に、動詞を名詞化して後接語を付加することにより従属節を構成し、時制や条件を表現することが分かった。

¹⁸唯一の例文は例 (42) である。

【参照文献】

- Lydall, J. 1976 "Hamar" In M. L. Bender (ed.) *The Non-Semitic Languages of Ethiopia*. Michigan: Michigan State University. 393-438.
- 高橋洋成 2006 「ハマル語の音素とアクセント」乾秀行（編）『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築（Cushitic-Omotc Studies 2006）』 81-91.
- 高橋洋成 2009 「ハマル語の基礎語彙、ならびに動詞形態の考察」乾秀行（編）『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築（Cushitic-Omotc Studies 2008）』 107-138.

A 付録：ハマル語の語彙目録

A.1 名詞・形容詞

以下の語彙目録は簡易的なものであり、接辞を伴うときの形態は載せていない。また、カロ語と思われるものには <KARO>、バンナ語と思われるものには <BANNA> 標識をつけている。

頭（ひたい）、グループ	mete
顔	woti
手（肩、腕、指）	á:n
髪（毛）	siri
目、種	a:p̄i
耳	q'a:mi
鼻	nuki
口（唇）、言葉	aṗo
歯	asi
舌	atáḃá
頬	karč'a
ひげ	buši
首	q'orči, izaq'e <KARO> q'ó:č'á
体、皮膚	biší
肩	gele <KARO> kapana
乳房	sadá
腹	í:

背中	zíga
腰	bágádé
腰 (ベルトを締める位置)	karna
足	ro:
尻	tudí
	<KARO> gobózí
爪	gušo
ひざ	búq'ó
尾	dubáná
ペニス	sa:má
毛皮 (動物の皮)	é6(i)
骨	le:pi
血	zombi
	<KARO> maʔási
心臓	wójlam
涙	erma(ti)
唾	patí
	<KARO> pásí
父、父の弟 (父方の叔父)、 持ち主	ímba
母、母の妹 (母方の叔母)	inda
子ども、赤ん坊	na:si
男子	anǵi
女子	má:
兄、父の兄の息子 (従兄弟)	iším
姉、父の姉 (おば)	miša
弟、妹	kani
父の兄 (伯父)、祖父母、先祖	ejke
父の兄 (伯父)	ímbasa išímé 「伯父」
母の兄弟 (母方のおじ)	arak
	imbáxana < *imba kana
母の姉 (母方の伯母)、 父母の母 (祖母)	á:ka
夫	gešóa
妻	gešónó

名前	na:bi
家族	zelín e:di
親戚	e:dá
友人	a:námó
	misó 「同輩、アシスタント」
	e.g. misó 「こんにちは」 (同年代に対して)
	e.g. gefóá 「こんにちは」 (年上の人に対して)
	e.g. jere 「こんにちは」 (年下の人に対して)
隣人	ašín
客	šoší
	<KARO> čo:či
人	e:di 「人、人々」
もの	jer
労働者	wadmá e:di
商人	nagadé (<Amharic)
農民	ha:mín kojée
医者	akímí (<Amharic)
	mó:rá 「伝統的な専門知識を持つ人」
薬	de:šá
	de:šán aškée 「薬師」
傷	hajimi
	e:di hajimo, e:di burq'oda 「患者」
乞食	e:di míske
長老	donza
神	barjó, bajro
	barjón o:nin 「教会」
	e.g. bajró/barjó ime 「ありがとう。」
食べ物	galá
朝食	burín gala
昼食	ro:ron gala
夕食	ibanin gala, so:tín gala
パン	balaša
たまご	ǂúla
	<BANNA> múq'a
塩	sú:q'o

バター	waq'átí
油	zaʔinti
脂	mó:r
肉	wá:
ナイフ	alpá
スプーン	ka:li
皿	šárq'a (<Amharic)
コーヒー	buno
紅茶	šájí
牛乳	ra:ti
水	noq'o
氷	šekíní
唐辛子	barbara
ジャガイモ	tínǵíša
トマト	tumantumo
	<KARO> timatimo
ソルガム	isín
ショウガ	jármá
バナナ	muz(i) (<Amharic)
パパイヤ	papa(ja) (<Amharic)
レモン	ló:mí (<Amharic)
マンゴー	manǵo
動物	dabi
牛	wa:ki
雌牛	o:to
馬	párdá
ロバ	ukuli
	ukuli bula 「成人式、bull jumping」 ¹⁹
犬	q'aski
猫	wúro
鳥	áttí
ライオン	zóbo
羊	ja:ti
ヤギ	q'uli

¹⁹成人を迎える男子が牛の背をロバのように跳んでいくことから。

子ヤギ	anq'asi
ハイエナ	gudúrí
ブタ	wurgúba
ニワトリ	bá:ša
ネズミ	untín(i)
野ネズミ	segére
ウサギ	walre
ゾウ	donḡar
サル	gaja
カバ	a:de
ヘビ	guni
ワニ	gurgur
カエル	panáq'
ニシキヘビ	q'a:ri
魚	ká:ra
貝	kíbo
チョウ	peldá
ハチ	ánq'ásí
	<KARO> ánq'áts'í
ハエ	kutúfó, kutúmbo
蚊	zí:ní
ヤブ蚊 (bush fly)	q'awn kutúfo
ノミ	sají
シラミ	q'asa
アリ	nánḡo
槍	banq'í
狩り	adámá
網	(N/A)
	jirdá 「鳥を捕らえる罟」
縄	za:ni
袋	surba
	surba šiggla 「プラスチックの袋」
鞭	ḡíja
	q'aná
太陽	haj(i)

月、ひと月	arpi
星	e:zín(i)
雲	po:ló
空	č'ač'i
地、土	pe:
山	dúka
	<KARO> gemari
崖	bo:
川	bajti 「小川」
	báz(i) 「大きな水 (大河、湖)」
舟	gonǵala
森	q'áw
草原	tori
石	se:ni
砂	šá:mí
塵	silli
穴	ó:ló
木	há:q'á
枝	antí
葉	q'álǵi
	q'álbo
花	ówma
草	šudí
根	č'a:č'i
果実	fiaq'a á:pí
鋤	kojá
手斧	tetibe, tesibe
風	gebáre
雨	do:bi
霧	gudá
火、明かり	nu:
	nu: háq'a 「薪」
煙	č'uba
影	lúbo
灰	díbíni

坂	đuka otá
町	katámá
村	gurda
道	gojti
場所	raq'i
着物	apála
古着	bogge
女性用服 (革製)	ajzi
ベルト	q'alši
太鼓	(N/A)
	tarbí (まれ)
朝	huri
昼 (日)	ro:ro
	ró:ro wúl 「毎日」
夜	so:tí
夕方、今晚	ibá:nin, ša:kina
	na: ibá:nin 「昨夜」
夢	fi:ma
今日	kina
昨日	na:
	anḡalla, anḡaski 「一昨日」
昔、過去	éna
明日	saka
	óšala 「明後日」
	ossámbar 「三日後」
	okkan hajtana 「四日後」
	o:n hajtana 「五日後」
	o:nsa o:n hajtana 「六日後」
未来	wejna
今	ta:ki
週、マーケット	gabá
年	le?e
白	č'ajli, č'awli
黒	t'ija
	<KARO> ts'íjǎ

赤	der, zo:
	<KARO> zawi
緑	č'agáji
黄	galáp
ボルコト (携帯椅子)、椅子	borq'oto
戸	keri
屋根	o:nísa t'ánǵá
壁	kubá
窓	(N/A)
家	o:no, omi
井戸	tu:la 「川辺の泥を掘ってできる水たまり」
	bul 「貯水池」
トイレ	ša:ni ó:no
お金	kojmo
	birre 「ブル」
	santímí 「セント」
	šiliǵi 「シリング (50 セント)」
	bá:lansa 「5 ブル」
声、音	uspi 「音」
	q'orc'i, izaq'
新しい	ha:li
古い、老いた	gečó
	cf. gučó (周辺のハマル語)
若い	bárši, 6orle
大きい、広い、値が高い	ga:ri, gefi
小さい、狭い、値が安い	likka
良い、美しい	pajjá
	e.g. pajjáu 「元気か？」
	e.g. pajjá ne 「元気だ。」
悪い、汚い	síja
長い、背の高い	gudú6
短い、背の低い	órógó
暑い	osma
熱い、暖かい	ojđi
冷たい、寒い	q'aji

乾いている	t'e:di
濡れている	čapí
甘い	da:tá
苦い	t'aq'ma
遠い	pegé
近い	t'e:zi
重い	det'á
	<KARO> dets'a
軽い	šolba
豊かな	wodímo
貧しい	q'ambi, kopí
開いた	bulimi
閉じた	dit'imi
太った	durpi
痩せた	ganč'a
全ての	wúl, puč'
	pajla
多くの	gefi 「多数の」
	páci 「多量の」
他の、異なる	wa:, ab
同じ	kidikála, kala
	e.g. ina kikálá ima 「同じのをくれ。」
必要な	(N/A)
清潔な	čanq'al
速い	ji:ri, sá:na
遅い	le:májse
再び、また	pir
上	ša:
下	čo:
中	ijí, ijínte
外	šalí, šalínte
左	warkata
右	mizáq'á
前	b(i)rá, bránte
後	budo, budonte

横	gá:da
縦	tipá
私	inta
君	ja
私達	wodi
君達	jedi
誰	haj
何	har
どちら	fama
	e.g. fiamáa zagá 「どっちがほしい？」
	e.g. fiamowó fia našá 「どっちが好き？」
どのように	fiattajse adisá:ba je?e
	「どうやってアジスアベバに行くのか？」
	e.g. fiatte ne 「調子はどう？」
どこ	fiamo
	e.g. fiamóti ki de 「彼はどこにいる？」
	e.g. fiamowó fia je?e 「君はどこへ行く？」
なぜ	fiarna
いくつ	me:m faj ne 「いくら？」
半分	jo:gi
いくらか	toká
これ、それ、あれ	ka、aga
1	kala
2	lama
3	makkan
4	ojdí
5	donġ
6	lak
7	toba
8	lánkáj
9	sal
10	tábí
11	tábí kala
12	tábí lama

20	é:dí kala kajśá ²⁰ bóndi lama ²¹
21	é:dí kala kajśá aṕo(r) kala bóndi kala be búre lama be
30	é:dí kala kajśá aṕo tábí bóndi makkan
40	é:dí lama kajśá bóndi ojđí
100	é:dí dongṅ kajśá bire mato kala (<Amharic)
1000	ši: kala (<Amharic)
はい	jénne
いいえ	jintée

A.2 動詞

特に断りがなければ単数命令形で代表させる。

見る	šedá
だっこする	manka
探す、望む	zagá
聞く	q'ansa <KARO> esara
吐く	t'aʔá <KARO> ts'aʔa
疲れる	q'ají dí ne 「疲れた。」
治る	pajidí di ne 「治った。」 pa:ší di ne 「治した。」
着る	arsá
洗う	šijá
髪を結う	hapá
縫う	ja:ga
料理する	baḳá
焼く	ko:q'a
消す	de:sa

²⁰直訳は「1人分」すなわち指20本の意。

²¹主にお金を数えるときに用いられる。

食べる	kumma
	isa (丁寧ではない)
飲む (ミルク等)	kuma
飲む (水・コーヒー等)	wučá
腹がへる	da:q'ardí di ne 「腹がへった。」
のどが渴く	de:bardí di ne 「のどが乾いた。」
腐る	galano sí:(*sǐjí) dí ne 「食べ物が悪くなった。」
作る、建てる	aška
閉める	dir:t'a
掃く	saʔa
育つ	geʃa
死ぬ	dija
屠殺する	maša
噛みつく	gaʔa
掘る、耕す	dúq'a
	<KARO> bijá
隠す	dúka
眠る	woda
飛ぶ、立つ、起きる、始める	da:ʃa
終わる	mač'a
座る、住む	dorq'a
行く	jeʔe
歩く	jaja
走る	gobá
来る	niʔa
入る	arda
出る、登る	utá
	bulsa 「出せ。」
降りる	anša
到着する	jeska
通る、渡る	saga
言う	ǰalka
呼ぶ	e:la
	<KARO> gisma
尋ねる	ojsa

教える	tammarsa (<Amharic)
遊ぶ	jí:ga
歌う	da:sa
投げる、刺す、書く (まれ)	uka
	<KARO> dorba
怒る	da:gaða
叱る	woča
打つ (鞭で、棒で)	q'ana
与える	ima
	imbídi ne 「くれた。」
送る	nita
盗む	di:ba, dimma
待つ、見ている (世話する)	ka:la
囲む	ka:ra
笑う	hančá
泣く	e:pá
恐れる	pija
	<KARO> kurtemba
好む、愛する、嬉しくなる	naša
落ちる	baq'a
	da:mma 「落とす。」
持って行く	tija
置く	wodá
隠す	a:ša
押す	kuṗá
結ぶ	da:ka
ほどく	bula
曲げる	kombisa
折る (木を、布を)	q'ont'a
	<KARO> q'onts'a
切る	táka
裂く	hatta
泳ぐ	wa:ra
	<KARO> zó:tá
見せる	da:ja

嗅ぐ	gansa
呼吸する	no:p̄a
踊る	kirba
吸う	q'óč'á
撃つ	kat'a
ぶつかる	tuq'úmá
押す	góšá
ひっかく	q'ot'a
蹴る	gfeḡa
横たわる	gi:q' fia:ma
嫌いだ	čoča
拭く	šurta
脱ぐ	búlá
読む	ts'a:p̄a (<Amharic)
休む	ukunsa
買う	šana
売る	šanša
見つける、手に入れる	a:p̄a
数える	pajda
生まれる	fiadfa
助ける	kelša
会う	ka:ma
戦う	u:ri kansa
勝つ	baša
絶える、負ける	kaja
考える	q'a:ba
忘れる	wala
集める	puča
混ぜる	worsa
ある、いる	da: